

座長：長田 伝重（獨協医科大学日光医療センター 整形外科）
吉川 泰弘（駒沢病院 整形外科）

PD5-1 掌側月状骨窩辺縁骨片を有する橈骨遠位端骨折の治療戦略

Treatment strategy for distal radius fractures with volar lunate facet rim fragment

今谷 潤也¹, 檜崎 慎二¹, 沖田 駿治¹, 葛原 絢花¹, 近藤 秀則²

¹岡山済生会総合病院 整形外科, ²香川労災病院

橈骨遠位端骨折のうち掌側月状骨窩辺縁骨片（Rim骨片）を有する症例の頻度、骨癒合率、臨床成績などを調査した。Rim骨片を有する症例は851例中48例（5.6%）であった。全例手術により骨癒合し、臨床成績はおおむね良好であった。PD法（掌側ロックングプレートによるRim骨片支持と遠位・近位列スクリューでの関節面支持を獲得する手術法）は特に背側転位型症例で有用であった。

PD5-2 掌側プレート術後の掌側亜脱臼例の特徴—転位形態，原因，骨片のサポート率と矯正損失の関係

Characteristics of palmar subluxation after volar plating for distal radius fractures: morphology, cause and support rate

川崎 恵吉¹, 酒井 健¹, 筒井 完明¹, 新妻 学², 黒田 拓馬², 岡野 市郎², 安田 知弘³,
永井 隆士², 久保 和俊⁴, 稲垣 克記²

¹昭和大学横浜市北部病院 整形外科, ²昭和大学医学部整形外科学講座, ³昭和大学藤ヶ丘病院整形外科,
⁴昭和大学江東豊洲病院整形外科

2004年にHarnessが、橈骨遠位端骨折に対する掌側ロックングプレート固定術後に手根骨の掌側亜脱臼を来した掌側Barton骨折の7例を報告し、volar lunate facet（VLF）骨片の固定不足が原因と述べた。2015年に演者らは20例の掌側亜脱臼について報告し、VLF骨片のサイズが10mm以下に注意し、プレートによるサポート率を上げるように啓蒙したにも関わらず、当科では現在までに33例の亜脱臼例を経験し、retrospectiveに調査した。

PD5-3 掌側月状骨窩骨片を伴う橈骨遠位端骨折に対する掌側ロックングプレート固定

Palmar locking plate fixation for distal radius fractures with a volar lunate facet fragment

森谷 浩治

一般財団法人 新潟手の外科研究所

掌側月状骨窩（VLF）骨片は遠位設置型ないし関節縁、もしくは伸延した掌側ロックングプレート（PLP）固定で掌側傾斜（PT）を減じて、その免荷を図る。ただし、PT減少により免荷されるが、新たに背屈させようとする転位力によってVLF骨片の背屈転位が生じかねない。そのためプレート設置位置や螺子挿入方向の制約を受ける単軸型よりも、多軸型の遠位設置ないし関節縁PLPがVLF骨片にとっては理想的と考える。

PD5-4 掌側月状骨窩骨片に対する spring wire fixation法

Spring wire fixation for volar lunate facet fragment

寺浦 英俊, 山本 耕平

東住吉森本病院 整形外科/四肢外傷センター

Spring wire fixation (SWF) は2014年にMooreらが報告した方法で, 縦径が短い掌側月状骨窩 (VLF) 骨片の固定に有用である. VLF骨片の縦径が10mm未満の28例中5例で掌側ロッキングプレート固定とSWFを併用した. リムプレートと比較して屈筋腱断裂のリスクが低い, 遠位骨片の状態に応じて鋼線の刺入位置を調整することが可能, 挿入数の増減も容易などの利点をもつ.

PD5-5 掌側月状骨窩骨片に対する掌側橈尺靭帯縫合法

Volar radioulnar ligament suture technique for volar lunate facet fragments

西脇 正夫, 石原 啓成, 竹之下 真一, 石倉 佳代子, 歌島 淳, 寺坂 幸倫, 久永 希,
堀内 行雄

川崎市立川崎病院 整形外科 手肘外科センター

小さい掌側月状骨窩骨片を伴う掌側転位型橈骨遠位端骨折10例に対し, 掌側橈尺靭帯とプレート遠位端尺側の仮固定ホールを縫合する手術法を行い, 術後6か月の単純X線像とCT像で評価した結果, 掌側月状骨窩骨片が掌側や尺側に術後転位した例はなかった. 小さい掌側月状骨窩骨片に対しては, 矢状方向だけでなく, 本法のように掌側橈尺靭帯による尺側方向への牽引力を制動する方法が有用な可能性がある.

PD5-6 鏡視にて観察した掌側転位型橈骨遠位端骨折における掌側骨片の関節面整復状態

Joint surface reduction of volar side fragment of volar dislocated distal radius fracture from arthroscopic perspective

安部 幸雄, 高橋 洋平, 山下 陽輔

済生会下関総合病院 整形外科

橈骨遠位端骨折における掌側骨片の整復の重要性はアライメントの観点から論じられることはあるが, 関節面の整復状況から議論されることは少ない. 関節鏡にて観察した掌側骨片の転位様式は, 遠位へのせり上がり, 背屈転位であった. 鏡視下整復により掌側骨片の転位を整復することがベストであるが, 鏡視を行わない場合はこれらの転位が残存する危険性がある.